



2025.7.10

No.246

編集・発行人 樋口みな子

E-mail: minginga@agate.plala.or.jp

URL: <http://www.minaginga.sakura.ne.jp/index.html>

ゆうちょ銀行から

(記号) 19710 (番号) 02218911

他銀行から

(店番) 978 (口座番号) 0221891

ヒグチミナコ (郵送料年間 2,000 円)

平和を守るために声を上げ続けます

銀河通信は創刊から 37 年になりました

空は問いかける

5 月から 2 か月がたったばかりなのに、驚くようなことが次々と起こっています。世界中の国にさまざまな商品に大きな関税要求をするトランプ大統領が、今度は国際連合安全保障理事会の了解を得ずにイランに核施設攻撃を独断で決め実施しました。福島の子の舞になるところでした。トランプは「これは戦争を止めるため、ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下と本質的には同じ」と平然と述べました。トランプのような人が政治をつかさどることの恐ろしさに怒りでいっぱいです。石破総理は毅然と抗議しませんでした。国民の命と暮らしを守るはずの政治は今、どこに向かっているのでしょうか。

平和と豊かな自然を守りたいと 1988 年に「銀河通信」を創刊して 7 月 10 日で 37 周年になりました。こんなに長く続けられるとは考えてもいませんでしたが、1990 年 1 月に、沖縄戦で住民の 4 人に 1 人が犠牲になった沖縄を知りたいと家族で訪ねて書いたのが「基地の中に沖縄があった」(19 号、90 年 1 月 20 日発行)です。集団自決したチビチリガマを訪ね、言葉を失ったことも書いた通信が全国機関

紙コンクールで優秀賞に選ばれ、「こんな素朴な通信でもいいんだ」と継続する原動力になりました。

「戦後 80 年慰霊の日」に参加して沖縄の新聞 2 紙を買ってきます。希望の方は連絡ください」というメールが「子どもと学ぶ歴史教科書の会」のメーリングリストで届きました。私も購読会員ですが、早速、鳥塚義和さん(千葉県)に申し込みました。送っていただいた「沖縄タイムス」と「琉球新報」の詳細な紙面には「戦争を二度としてはならない」という思いが 2 つの新聞のすべてに込められていました。こんな詩がありました。

空は無限に広がる 敵にも味方にも
空は問いかける あの頃も今も
争いは何のため
憎しみが何を生む
人間だから 止められる
人間だから 手を取り合える
見上げた先に 瞬くものは
鉄の雨ではなく 星々の軌跡を

出典：沖縄タイムス 2025 年 6 月 23 日「戦後 80 年
慰霊の日」特別紙面より(詩のみ抜粋)

(写真と文 樋口みな子)



札幌市資料館前の満開のバラ (6.30 撮影)



南千歳駅で見た夕焼け (6.29 撮影)

2002年、教員生活の途中で1年間休職し、琉球大学大学院で学んだ。2019年に退職した後、千葉県流山市と石垣市白保とを行ったり来たりして暮らしている。

先日、石垣市の書店で、将口泰浩『歴史に葬られた特攻隊長』（徳間書店）という本が平積みになっていた。沖縄戦最初の特攻隊長、石垣出身で白保飛行場から飛び立った伊舎堂用久という人物の評伝。「伊舎堂中佐と隊員の顕彰碑」が2013年に建てられたことを紹介し、「慰霊碑ではなく、（略）功績を讃える顕彰碑であることの意義は大きい」と記し、伊舎堂は「郷土を守ろうとした」「郷土の英雄」であるという。特攻隊を美化し、顕彰し、「気概を受け継ぐ」ことを求めている。

また、用久の父と長兄の妻がマラリアで死んだことを記し、「石垣島などの八重山諸島は地上戦こそなかったが、米軍上陸に備え、マラリア有病地域の山間部に疎開して罹患、約3,000人が死亡した。戦争マラリアと呼ばれている」とさらりと書く。しかし、これでは住民が自主的に避難したようにも読める。石垣島に自衛隊基地がつくられ、ミサイル基地として増強される中、「軍は郷土（住民）を守ろうとした」という虚構の歴史像が宣伝され、歴史の書き換えが進められようとしている。

中山義隆石垣市長は「偏向に近い教育を受けてきた」「自決したいから『手榴弾下さい』と言った人もいるだろう」（5月16日）などと発言していたが、6月18日、議案の日付改ざんがばれて市議会で不信任決議が可決された。自動失職を選び、再出馬の意向。齋藤兵庫県知事の柳の下の二匹目となるのか。

19日、「平和の礎」のインターネット検索システムが完成し、沖縄県が公開した。刻銘者の氏名、生年月日、出身地が検索できる。

21日、石垣から那覇へ飛ぶ。桜坂劇場で映画『摩文仁』を観る。顕彰か慰霊か、戦死者とどう向き合うのか考えさせる作品。

22日、「沖縄タイムス」の一面トップは「辞世の句 軍が書き換え」。牛島満司令官が大本營に送った辞世の句が軍中央によって本土決戦に向けて戦意高揚を図る形に書き換えられていた。社説は「軍は住民守らなかった」。見開きで意見広告「もう二度と沖縄を、本土を、戦場にさせない」。私の名前も。那覇市おもろまちの映画館で『木の上の軍隊』を観る。

23日、朝8時から知人に分ける分の「沖縄タイムス」「琉球新報」をコンビニで購入。16部位すぐ集められると思っていたが、これが難しい。結局コンビニ13店を廻ってようやくゲット。現役の頃は、県民集会などがあると、高嶋伸欣さん（琉球大学名誉教授）から沖縄の新聞・号外を送ってもらい、授業で使ったものだった。

9時30分、県庁発の無料バスに乗り、平和祈念公園へ。平和の礎では字白保のところを訪ねた。刻銘されているのは259人。当時白保は人口1,255人。軍の命令でマラリア有病地に追いやられ、罹患者1,184人、死亡者169人を出した。

韓国人慰霊塔で黙祷し、11時50分から記念式典に参加。玉城デニー知事の宣言と小学生の作文朗読に大きな拍手。石破首相のあいさつには私と同じく拍手しない人が多数。

その後歩いて魂魄の塔、荒崎海岸へ。現役の時、沖縄修学旅行の係を7回担当したが、宮城喜久子さんに講演を依頼することが多かった。誰もいない海岸で献花。バス停に着いたのは、15時20分。炎天下摩文仁から2時間かかった。夜、安里の栄町市場に行く。かつてひめゆりの学園があった場所。戦後は市場となり、最近はディープな飲み屋街となっている。ひめゆり同窓会館内のピースホールで、演劇『カデナ』（原作：池澤夏樹）を観た。

流山に戻って、全国紙を見たが、沖縄の新聞との落差に驚くばかりだ。（子どもと学ぶ歴史教科書の会）



「大間原発訴訟の会」代表の竹田とし子さんの遺志を引き継ぎます

竹田とし子さんが2月28日に76歳で急死されました。私も「大間原発訴訟の会」の原告の一人です。竹田さんとの出会いは福島原発事故後に立ち上げた「泊原発の廃炉をめざす会」の原告として、私が慣れない事務局長だったところからのご縁です。竹田さんは函館の方なのにこちらにも原告として関わってくださったのです。札幌駅近くで大間原発の建設差し止め提訴のいきさつを伺いました。以来、「銀河通信」も長く購読していただきました。住民の命を守りたい」と優しい笑顔からは想像もつかない闘志で頑張った14年間でした。お疲れさまでした。「あなたの遺志」を私もたくさん仲間と引き継ぎます。（樋口みな子）



ムラサキツブクサ 撮影：前橋市 堀 泰雄さん

現地で水俣病を学ぶ

5月17日、18日、西村まゆみさんと二人で熊本県水俣を訪問して、石澤さんの紹介で、水俣の歴史を語られる山下善寛さん(1978~1990年 チッソ第一労組委員長、84歳)や胎児性水俣病の当事者の方4人や支援者の方(加藤タケ子さんや永野三智さん)にお会いして話を聞くことができました。また、相思社を訪問しました。

私が生まれたのは1956年です。18日午前中お会いした胎児性水俣病の方は1957年に生まれたり1960年に生まれたり、まさに同じ時期を生きてきた仲間です。たまたま親が水俣の海で採れる魚を食べていたことから、胎児であった皆さんは有機水銀などの影響で身体障害者になりました。

私がお会いした4人の胎児性水俣病の方は、その原因を知らなければ外見は普通の脳性麻痺の患者さんか、普通の車いすユーザーさんと同じです。4人の胎児性水俣病の方は、小さい時から補装具をつけられ歩行の訓練をさせられたり、体を支える訓練をさせられました。施設に收容され、施設内学校(分院)で学びました。外見上はそれほど重くはなかったのですが水俣市にあった施設明水園に幼い時から收容させられたりしました。

胎児性水俣病の4人の方のお話を聞くと、親の皆さんは水俣病という差別の中で、自らの水俣病を申告しないなど大変な状況で生きていたことも知りました。また私があった4人の胎児性水俣病の方は現状を見る限りその障害の程度はそれほど変わらないように見えるのですが、Aランクの方が3人、Bランクの方がひとり、そこには行政の恣意的な障害区分がありました。

百間という排出口があります。その排出口はチッソ水俣工場の廃液を流す排出口なのですが、そこから水俣の海に有機水銀が流れていくわけです。その無神経さに驚きました。

中学を卒業した山下さんはこのチッソに入社し猫の餌を作りその餌を食べた猫がどのようなようになるかの実験に携わりました。水俣病は会社とは無関係だと言うことを証明しようとしたのですが、海岸沿いの漁民から買い取った魚で作った餌を食べた猫は、皆水俣病と同じ現象を示して死んだそうです。

チッソという会社は有機水銀を体に蓄えた魚を湾内で補足しそれをドラム缶に入れ埋め立て地に埋めました。その埋め立て地に私たちは足を運び、立派なサッカーグラウンド、バラ園、水俣道の駅になっています。30年前に埋め立てたその公園には大きな木がたくさんたっていました。根が伸びて、ドラム缶を壊すようなことがあれば地中深くに

西村 武彦

眠っているはずの有機水銀はどうなるのでしょうか。

水俣の人口は最盛期の半分で今は2万人ちょっとだそうです。しかしベッド数は人口割合で言うと日本では一番だそうです。また整骨院などの施設は人口割合で言うと一番あります。車で水俣市内を走っているとたくさんの整骨院を実際に見ます。つまり水俣病と認定されている人たち以外にも、水俣病と認定されていない人の中にもたくさんの患者さんが居て日々の生活の中で苦しんでいる。だから整骨院が経営を維持できるわけです。そしてたくさんの病院のベッドが満床なわけです。

水俣病はまだまだ終わってはいませんが、水俣病の存在を知らない国民の方が多いいのではないかと思います。街中を走っていると水俣病という呼び方はやめて別の呼び方にしよう、と呼びかける、そういう大きな看板も見ました。有機水銀病とかいろんな言い方があるのですが、水俣病というのは歴史に残すべき病気ですし、歴史に残してその過ちを国民が知ることは未来の日本を作る上でとても大事なことだと思いました。無論補償も大事です。今も私の知る限り2,000人を超える人が鹿児島・熊本で原告になって、国に認定を求めています。

広大な埋め立て地の中にほんの少しだけお詫び程度に看板があり、そこにチッソ工場のせいでは何が起きたのかということが書かれています。それをしっかり読んで心に刻むことが未来の日本を作る私たちの義務だと思います。山下さんからいただいた「いきなり団子」はとても美味しかったです。津名木というところの産物でした。津名木もたくさんの被害者のいる町です。

水俣の街は漁業の町だったので長崎市との関係が深く、そのため長崎カステラや長崎ちゃんぽんが水俣の町でも水俣の料理として存在していました。ずっと昔長崎の街で食べたちゃんぽんと遜色のない味でした。

18日のお昼は水俣駅の隣の料理屋さんで私は念願の鯛茶漬を食べることができました。この魚そのものは水俣漁港で取れたものではなく、そこは違うところから持ってきたタイのようですが、とても美味しかったです。水俣の街を車で走っても魚屋さんらしいお店はほとんどありませんでした。悲しい事実だと思います。漁師の街に魚屋さんがないというのはおかしな話です。

(わだつみ会理事、北海道障害者人権センター事務局長、NPO ふくろう成年後見センター代表理事、札幌弁護士会・ルピナス法律事務所所属)



食事会で
中央が筆者と妻



水俣病学習会

福島第一原発視察会に参加して(その1) 福原 正和

6月1~2日、原発施設が実際に見られる貴重な機会と思い「反核医師の会 東電福島第一原発視察会」に参加しました。6月1日福島駅から福島民医連事務局の方から説明を受けながらバスで一路、原発から30キロ離れているにもかかわらず放射線量が高く帰宅困難地域に指定されている浪江町津島地区に向かいました。

津島地区で「福島原発事故津島被害者原告団」の元農家三瓶(さんべい)春江さんがバスに同乗し説明していただきながら地区を走る。原発事故の3年前に出来た保育園は廃墟となり商店なども草莽々となり、住宅のあった場所は更地となっている。昨年24年3月迄に申請しないと住宅の解体費用が補償されないとわれ、展望が持てない中多くの住民は泣く泣く住宅解体をした為多くが更地になっています。以前ここが地区の中心だった事が分からない状態に。

津島地区には450戸1,400人が住んでいたが、戻ったのは区長一軒のみ「小さい子どもがいないから」と。復興住宅には10軒住んでいるが元々の住民は3軒で内2軒は他に家があり通っているのみと。

津島地区を一通り見た後、東日本大震災・原子力災害伝承館に移動。館内には被害の写真が多数展示され、庭に



人気(ひとけ)のない「津島診療所」前で説明する三瓶さん

双葉町中心部にあった標語「原子力明るい未来のエネルギー」看板のレプリカと津波で流され壊れた消防車が展示されていました。

会議室で三瓶さんのお話を伺いました。原発事故の時、津島地区は原発から約30キロ離れているので、原発近くの浪江町中心部(震災当時町人口約21,000人)住民の避難を3月12日馬場町長が決断、津島住民は受け入れのため戸外に出て炊き出しや仮設トイレの設置などを行いました。SPEEDIのデータでは津島地区の放射線量が高かったのに住民には知らされず、子どもも含め住民は放射線を浴びました。(注:SPEEDIデータは米大使館には知らされていた)

私達は放射線量を知らされていませんでしたが、白い防護服を来た人が地域で何人も目撃されていました。「この地域は放射線量が高くて危険です。すぐ避難して下さい」とその人達は何故教えてくれなかったのでしょうか。残念です。

3月15日には「ここも危ない」として更に各地に避難する事になりました。(津島診療所関根医師の放射線バッジは15日800m Svを記録)

「一部(1.6%)避難指示解除と言ってもガソリンスタンドも商店もない所にどうして戻ってこられますか!畑も作れず生活も出来ません」「うちは4世代で10人家族でしたが、子どもや孫の事を考えると学校も近しく戻って来られません」「ただお墓をどうするか迷っています。亡くなっ

た父は津島に帰りたいと言っていました、墓参りにも中々来れない避難地域にお墓を作るべきかと」「原発事故は私達の人生・家族を崩壊させました」

津島地区は満州からの引き揚げ者等が戦後入植して苦労して切り開いた土地であり、その人達の苦労を思うと離れることに断腸の思いです。山の恵みも多く、住民は仲良く暮らしていました。この土地と暮らしが好きで住むようになりましたが、原発事故は私と家族から生活の全てを奪ってしまいました。国に責任を認めさせるためのたたかいは「戦争反対」と同じで訴え続けなければならないと思っています。

私達は異境で避難生活を送らなければならない状況で、身が震える憤りとふるさとへの痛切な想いを胸に、この過酷事故を引き起こした国と東京電力の法的責任を明らかにし、環境(原状)の回復と損害賠償を求めて提訴しています。こんな状況で原発再開など国は何を考えているのでしょうか。「私達に力を貸して下さい」と涙ながらの訴えで交流会を終了しました。

その後バスの中で、道路は立派となり道路から見える住宅は解体・更地になっていると一見復興している様に見えますが、津島住民の生活は復興どころか復旧すら出来ていません。津島地区は浪江町の一部ですが、早い復興を願う浪江町商店街や町当局へは、中心部から離れている津島地区住民の気持ちは必ずしも届いていないようです、と民医連事務局から話がありました。これで1日目は終了。

(北海道反核医師の会)

「長沼平和田」で田植えをしました

北海道朝鮮初中高級学校中級部の生徒さんが長沼町の「長沼平和田」で田植えをしました。

「北海道在日朝鮮人の人権を守る会」では、毎年北海道朝鮮初中高級学校へ「平和友好米」として米500kgなどを贈っています。

昨年は49回目でした。その米を作っている「長沼平和田」で、5月26日、中級部の皆さんが田植えを体験しました。少し肌寒い天候ではありましたが、生徒さん達は元気に笑顔で田植えを楽しんでいました。北海道朝鮮学校を支える会のメンバーも少しお手伝いをしました。

すぐ近くの田には長沼ナイキ基地訴訟で「平和に生きる権利」を認めた一審判決(福島裁判長)の記念碑建設予定地の表示がありました。(黒田敏彦)



5.26 長沼町で田植え

お薦め本

四六時中の空爆で破壊 しつくされる日常



ガザ、戦下の人道医療援助

2025年発行 萩原健著 発行：ホーム社/発売：集英社 2,200円



至近距離での空爆、戦車による砲撃、繰り返される退避要求と心休まることのないガザの人々。密集するテントでの不自由な生活を余儀なくされる大量の避難民。一般市民が何故こんな目に遭わなければならないのか。必死で医療に携わり、少しでも多くの命を救おうと懸命な国境なき医師団 (MSF) のスタッフや医療関係者。疲弊しながらも希望を失わないガザの住民や子どもたち。活動責任者として、スタッフの安全を確保しつつ、地域住民との交渉などにも奔走する萩原健さんが、さまざまな背景も交えながら戦下のガザの現実を描きます。毎日のように報じられてはいても、ここまでひどいのか？と言葉を失いました。

序章には、イスラエル軍はガザ地区をいくつものブロックに分けた地図を公開。“ガザ地域の住民の安全確保のための措置”と報じた。が、その後行われたことは繰り返される“退避要求”、“事実上の強制移動”、“集団的懲罰”という非人道的行為と思われるものだった。

第3章「絶対的に不足している水」では「軍事利用されるおそれがあるとして、復興に必要な物資は厳しい規制がかけられているため、損傷したインフラは復旧できない。人びとは人道援助団体が手配した給水車に頼るしかなく、給水所には連日人が殺到。ときには水をめぐって抗争にまで発展している」

第5章「至近距離での空爆」では「ヒューツという空気を割くような音に続いて大きな爆発音と振動。(中略)僕は念のため部屋を出て、上に向かって、「窓ガラスから離れて、床に伏せ、指示を待て。階下に下りてくるな。聞こえたか？」と叫んだ、と書きます。

第7章「ガザの子どもたち」では「ここは約3割が10歳未満という社会だ。そのせいだろうか、数え切れないほどの受け入れ難い現実がある中でも、僕はガザに強烈なエネルギーを感じるのだ。日々のスタッフとのやりとりの中にも、笑いがある」に少しだけホッとしました。

著者の萩原さんは訴えます。「一年以上の間そのような状況を許してきた世界の国々のリーダーは、改めて人道とは何か、人間の尊厳とは何かを問われなければならない。政治家だけではない。この世界で生きる僕を含めた人類は、今、試されている」と結んでいます。

ガザの現実が胸に迫って苦しくなりました。イスラエルのしていることは到底許せません。世界中の政治家、有識者、そして市民が「爆撃をやめて」と声を大きくして訴えなければと思います。(樋口みな子)

カルト教団の実態を 明らかにした



統一教会との格闘、22年

2025年発行 鈴木エイト著 角川新書 1,144円

統一教会はカルト集団です。しかし彼らは正体を隠して「手相の勉強」や「意識調査アンケート」を口実に街中で声をかけ、「ビデオセンター」と呼ばれる教化施設へ連れて行き洗脳したのです。

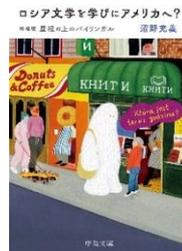
著者は2002年、渋谷の雑踏に紛れ込み何人もの若者を救いました。最初は正義感からでしたが、仕事を確保しながら22年間も、統一教会の言葉たくみな勧誘を阻止したり、内部に入り込んで「エイトのブログ」で発信し続けました。教団員から殴られたり誹謗中傷にも遭いながら、負けずに闘いつづけたことは素晴らしいと思います。高額な壺などを法外な金額で購入させる霊感商法が問題になった時も、統一教会は政治家に働きかけて捜査をストップさせたりしてきました。「やや日刊カルト新聞」の創刊(2009年)に参加しジャーナリストを名乗るようになります。

統一教会は自治体のイベントなどにも潜り込み、巧みに勧誘して、会員から膨大なお金を奪ったのです。そういう事実を追及しつづけた人は、著者から始まったといっても過言ではないと思います。

私が思い出したのは、韓国での信者同志の集団結婚式です。私の東京での学生時代の同級生は、優秀な女性でしたが就職後、勧誘されて集団結婚式で信者になったと風のたよりで聞きました。その後の消息は分かりません。著者は信者となった人たちは「どこにでもいる人たち」である。「この本を読んでいるあなたの娘、友人、恋人であったかもしれないし、「身近な人が、ある日突然カルト教団に取り込まれてしまうことは、誰にでも起こり得る」のだと書いています。

政治家とも関りが深いことは赤旗の取材でも明らかになりました。著者の22年間の闘いを是非読んで応援してください。(樋口みな子)

亡命者・移民・多言語話者の 文学を縦横に考察



ロシア文学を学びにアメリカへ? 増補版 屋根の上のバイリンガル

2025年発行 沼野充義著 中公文庫 1,100円

『屋根の上のバイリンガル』として1988年筑摩書房から刊行。今回「はじめに」「ハーバード生活から、三つのエピソード(あとがき)」それにいくつかの章へ「中公文庫版への付記」を書き下ろした増補版。

今、トランプ大統領によって、ハーバード大学に留学する外国人に入国を制限することになり、日本からの留学生

も他の大学への変更を余儀なくされています。

著者の沼野充義さんは、ロシア文学専攻でありながら米国のハーバード大学に留学し、学内だけにとどまらず東欧系移民や亡命作家たちとの交流から得た豊かな体験談を起點に、亡命者・移民・多言語話者の文学や言葉を縦横に考察しています。

スラヴ系移住者の海に飛び込んだアメリカ体験記。移民の言語事情やイディッシュ語など、ときに複雑なテーマを扱っているのに著者のユーモアで、難しい話題が丁寧かつ、読みやすく解き明かされます。21世紀のいまこそ改めて読むべきテーマであり、ロシア(スラヴ)界隈に興味があってもなくても得るものはとても大きいと思います。かつては「バイリンガル」そのもののイメージや社会評価がそれほど肯定的ではなかったということも初めて知りました。

著者は、土地に詳しいわけでもないのに、アメリカを車で移動し、憧れの作家に会いに行くのです。ヨーロッパではフロント・ガラスが割れても修理して、東西ベルリンの壁も越えるのです。その行動力と軽やかさに圧倒されました。街の人々の生き生きした姿が活写されます。こんな留学生活もあるのかと目から鱗が落ちる思いでした。

スラヴ語など日本ではマイナーな言語についてなど、とても興味深かったです。ハイネの詩は独語であるからこそ意味をなし、仏語、英語では別物になる。日本ではバイリンガルは良い意味で用いられるが、海外では貧しい移民の象徴で見下された概念という。多言語社会であるアメリカで、さまざまな言語を操り人と交流する喜びを、その背後にある歴史や文化を考察しながら軽やかに楽しく描写していて、少なくともかつてのアメリカは多様な文化を受け入れる度量や、大らかさが残っていたのだと思いました。

ウクライナが確固とした民族意識を持った人たちであることとか、ヨハネ・パウロ2世がポーランド出身の初の教皇として就任した話とか、現在のウクライナ戦争や、フランシスコ教皇逝去の話とリンクして、現代とつながりました。

えっ、こんな人たちも交流があったの?という方も出てきます。有名な人では日本文学専攻のロバート・キャンベル。ハーバード大学の同窓で、東大で国文学を教え、国文学研究資料館の館長を務めました。ハーバード大学が果たしてきた役割を失ってはならないと思います。

トランプ政権の独断的な政治で、自由であるべき学術研究の世界は、ハーバード大学を筆頭としてどうなるのだろう。あとがきに引かれていた旧知の亡命ロシア人のことば「これから四年の間に根絶やしにされてしまうほど、アメリカの知的制度はやわじゃないさ」に希望を持ちたい。

(樋口みな子)

国境を挟む二つの国の市民 たちが苦しんでいる

ロシアのなかのソ連
さびしい大国、人と暮らしと戦争と

2022年発行 馬場朝子著
現代書館 1,980円



著者は1970年からモスクワ国立大学文学部に6年間留学し、帰国後NHKに入局。ディレクターとして40本以上のソ連・ロシア関連ドキュメンタリー番組の制作に従事しながら、ロシア現地で取材を積み重ね、その変遷を辿っています。

留学した当時は社会主義国・ソ連でした。住居、教育、医療はすべて無料、失業者もホームレスもゼロ、市場競争がなく「平等」を重んじる価値観、男女間の差別もなく、むしろ女性が主役として力強く働く社会。190以上の民族が暮らし、異なる言語、伝統、宗教を持つ人びとを社会主義イデオロギーが結びつけ、ロシア人もウクライナ人もカザフ人も同じ「ソ連国民」であり、表立った民族差別はなかったとも書きます。

1991年、世界数十カ国の社会主義陣営を率いたソ連は崩壊する。西側世界でそれは、閉ざされた門戸を開き、自由で豊かな未来がやってくる希望に満ちた門出のように受け止められた。「平等」を重んじてきた社会システムから競争社会になったのです。

1979年に侵攻したアフガニスタンでの敗北がロシア社会に深刻な傷をもたらしたことに触れて「アフガニスタンに、ソ連は十年かけて社会主義を根づかせようとし、アメリカは自分たちの民主主義を二十年かけて根づかせようとした。そして、結局両者とも失敗に終わった。その国の伝統や文化を無視して、他国に自らのシステムを押しつけることはできないと歴史は証明したのだ」とも述べています。

2022年2月24日にロシアがウクライナに侵攻して3年、兄弟のような間柄だったロシアとウクライナ。ロシア国内ではかつてなく反戦機運が高まった。本書に掲載されているモスクワ市内に貼られた反戦ビラには「ウクライナ戦争にNOを。政治家は権力争いをし、帝国を夢見る。そして国境を挟む二つの国の市民たちが苦しんでいる」と書かれています。でも彼らの行動は弾圧されていまでは報道されることはありません。この著書を書いた当時より抗議行動は難しくなっているのでしょうか。

アメリカを筆頭とするNATOは、ウクライナ兵に戦わせつつ、武器供給や情報などにいたる戦争支援に勤しみ、犠牲者が増える一方です。これに端を発して新たな「冷戦」に突入する機運さえも高まるなか、戦争を食い止めるために私たち市井に生きる人間は、誰と連帯し、どこに解決の糸口を見つけるべきかが問われています。

「プーチン大統領が今回の戦争で勝利したとしても、ウクライナの人たちの心は完全にロシアから離れていくだろう。憎しみ、悲しみ、怒りは語り継がれ、何世代も忘れ去られることはない。それはプーチンの歴史的敗北になる」。現地をよく知っている著者の言葉は心に刺さりました。今の国際情勢について深い理解を得られるだけでなく、報道では伝わってこない「普通のロシア人」について身近に感じることができます。

日本の2025年度の防衛予算案(米軍再編経費など含む)は過去最大の8兆7005億円に怒りでいっぱいです。なぜ、医療費や福祉、物価高に取り組まないのか。そして日本は戦争終結にもっと力を入れてほしい。平和外交にこそ力を入れるべきです。(樋口みな子)



映画の紹介

各地で新たな観客を生み出しているピアノ de シネマ・イン・サッポロを楽しむ～『サンライズ』フリードリッヒ・ヴィルヘルム・ムルナウ監督

とてもよい季節6月に、第二回目の「ピアノ de シネマ・イン・サッポロ」が開催された。昨年2月、雪まつりの最中に第一回目が開催され、その時はフランク・ボーゼージ監督、ジャネット・ゲイナー主演の傑作『第七天国』(1927)で、多くの観客の涙を誘った名作だったが、今回上映したのは、ふたたびジャネット・ゲイナー主演、監督はドイツの大撮影所ウーファでその名を知られた『吸血鬼ノスフェラトゥ』(1922)のフリードリッヒ・ヴィルヘルム・ムルナウの、渡米後初めてハリウッドで監督した『サンライズ』(1927)である。ジャネット・ゲイナーは、前記二本と『街の天使』(1928)での好演が認められ、アカデミー主演女優賞を獲得ほどの印象的な存在と演技力である。

この「ピアノ de シネマ」は、柳下美恵さんのピアノ伴奏によるサイレント映画の普及を目的としたイベントで、彼女のホームというべき東京や神奈川その他の地域で活弁に演奏活動を繰り広げている。そのほか海外の映画祭などでも演奏を披露し続け、高い評価を得ている。

そもそもサイレント映画とは何かといえば、映画史の始まりは音声がついていなかったが、映画は決してサイレント状態で上映されてはいなかった。リュミエール兄弟が最初の映画、シネマトグラフを上映した時にもピアノ伴奏が付いていたのである。やがてトーキー(発声映画)になって、楽師が生で演奏するという習慣がなくなってしまった。

以後、トーキー映画では、あらかじめ音声が含まれたサウンドトラック付の映画を上映する。しかし、困ったことに、過去の映画、サイレント映画を上映する時、近年までそのまま無音で上映されていたのだが、それをもととの生の楽師が伴奏するという形式を復活したのが、この「ピアノ de シネマ」である。

日本では、ピアノや楽団付、活動弁士(活弁)付で上映する習慣が、サイレント映画が衰退してほぼなくなったのだが、最近ピアノやオルガン伴奏でサイレント映画を上映して各地で新たな観客を生み出しており、日本でもこの流れに乗って新たにサイレント映画を楽しむようになってきて、その代表的推進者が柳下美恵さんである。

対談ではピアノ演奏の疲れも感じさせず、快活に伴奏を付けた苦労や喜びについて語られた。もっとも力強く語ら



対談 柳下さん(左)と筆者

れたのは、ムルナウ監督のこの作品に賭ける力、意気込みであった。サイレント映画末期の傑作『サンライズ』を大いに楽しんでいただけたなら幸いである。

(坂尻昌平・映画研究者)

銀河通信の感想

245号の紹介でこの本読みたい(日本国憲法の200日)、この映画観たい(幸福の黄色いハンカチ)と思いました。高倉健の映画は二本観ました。コロナの時、何処へも行けず、パソコンで毎日映画を観て過ごしました。「遙かなる山の呼び声」「幸福の黄色いハンカチ」高倉健に惚れました。半藤一利さんの講演も、何回か聴きました。彼の奥様が漱石の孫で、漱石山房記念館で講演をされました。語り口の魅力的な方でした。「漱石先生ぞな、もし」「ノモンハンの夏」「昭和史」等読んだ覚えがあります。

ベトナムにも思い出が。慶応大学で出会い、泊まり合うような親友が、(ベトナム戦争の頃)ベトナム人チャインさんと付き合っていました。彼はベトナムで平和運動をして、ビザ無しで日本へ追放されたのです。ベ平連の時代です。親友は彼と付き合い、私ははらはら見ていました。彼は在日ベトナム人のリーダーになっていきました。でも、彼は転んで頭を打ちベッドに座っているだけの人になってしまいました。彼が亡くなったときは、ベトナム政府から大きな花が届きました。彼は横浜に眠っています。

親友はドイツ語を学び、その後音楽大学に行き、高校の音楽の先生になりました。60年来の友達です。物語のようです。(新宿区・甲野恵美)

命をまもるために最善を尽くした記録 『フロントライン』

関根光才監督



2020年、新型コロナウイルスの集団感染が起こったダイヤモンド・プリンセス号を舞台に、災害派遣医療チーム(DMAT)や厚生省、クルーズ船スタッフの活動と船内の実態取材に基づいて再現しています。ニュースを思い起こしつつ、全く想像もしなかった当時の状況を知りました。あの時に起きていた医療者やその家族、それぞれの立場の葛藤はまるでドキュメンタリーの様です。目に映っていなかった現実が、この映画にはしっかりと描かれていました。

物語はDMAT総括の結城(小栗旬)、船内の指揮所の仙道(窪塚洋介)、隊員の真田(池松壮亮)、厚生労働省の担当官立松(松坂桃李)の4人を中心に展開します。彼らは東日本大震災の二の舞になってはならないと、「救える命を救う」ことを最優先。メディアの批判や乗客の不満を痛いほど感じながら全力を尽くします。時に迷う結城を支える仙道や、立松、妻と小学生を置いてクルーズ船に乗り込んだ真田は乗客の気持ちに共感する。私も当時、病院に入院していた夫がコロナに感染して、長い間面会できなかった辛さと重なりました。一人ひとりが「何が正解かわからない」中で、命と向き合っていた姿に、深く感銘を受けました。しかし、ことさらにドラマチックにしていない。抑制されたトーンで終始し、これが真実であったことが理解できました。いかに、マスコミ報道に惑わされていたかも知りました。5年前の出来事を冷静にとらえた真摯さが伝わってきました。記録としても優れた作品だと思います。

私は江別で平日に観ましたが、いつもは観客が少ないのに、若い人たちがたくさん鑑賞していて、当時、小中学生だった時に、コロナ感染拡大で学校休校を経験した人たちだと思いました。(樋口みな子)

民主主義や地方自治のあり方を問う

『太陽(ティダ)の運命』佐古忠彦監督



日本と米国の緩衝材として常に犠牲を強いられてきた沖縄。そんな沖縄のリーダーである沖縄県知事、第4代知事の大田昌秀(1990~1998年)さん、第7代知事の翁長雄志さんのふたりの闘いを取り上げたドキュメンタリー映画です。ふたりの歩みはそのまま、戦後の沖縄の歴史である。そして民主主義とは何か、を問うものにもなっています。リーダーの在り方を示唆する本作。自分の信じた道をいかに貫いたかが真に迫ります。

政治は市民の命と暮らしを守るのが役目なのに、自分の保身ばかりの政治家に失望させられる中で、こんな素晴らしい政治家が存在したことに驚きと感動を覚えました。大田さんと翁長さんは、政治的な立場は正反対であり、互いに反目する関係性にありました。しかし、両氏ともに県民から幅広い支持を集め、保守・革新の枠にとらわれずに県政を運営しました。大田氏は1995年に軍用地強制使用の代理署名を拒否し、翁長さんは2015年に辺野古埋め立て承認の取り消しを行うなど、それぞれが国の政策に対して明確な意思表示を行い、法廷で争ったのです。そんな事実も知らなかった私を恥じました。

映画は、この二人の知事が何を目指し、何と闘い、何に挫折し、そして何を成し遂げたのかを追います。彼らの行動を通して、民主主義や地方自治のあり方、そして日本という国が抱える矛盾を浮き彫りにし、現代日本の現在地を探ることを試んでいます。関係者の証言を交えながら、二人の人間的魅力にも光を当てています。二人は沖縄県民の思いを代弁したのです。沖縄県民の根底にある思想が強く伝わってきました。(樋口みな子)

選挙に行こう！自分たちの街は自分たちで守る

『〇月〇日、区長になる女。』ベヤンヌマキ監督

2022年の東京杉並区長選で、わずか187票差で現職区長を破った岸本聡子さんと、草の根で支えた地域住民たちに密着したドキュメンタリーです。



杉並区に住むベヤンヌマキ監督が、自身の住んでいる地区での道路拡張計画をきっかけに地域問題の当事者となり、映画の制作を開始しました。それまで無縁だった選挙や政治の世界に飛び込んで住民たちと連携して、候補者や支援者たちと対話を重ねていく姿を映し出します。政治や選挙

が私たちの生活に繋がっていることに気付いたと監督。

地域住民から推された岸本さんと、彼女を支える杉並区の人々の、自分たちの暮らしを守る民主主義は自分たちの手で作っていくものだという行動力に心が揺さぶられました。真剣なんだけど、運動する人々は楽しんで自分のやれることで応援するのです。ひとりでプラカードを持つ人もあれば、選挙事務所の掃除を懸命にする人、そして岸本さんにもっと主張を明快にしてとアドバイスする人など、応援する女性たちは杉並区が大好きな人ばかり。私も杉並区に多少縁がありますが、何かの機会に書きたいと思います。

見事に岸本さんは当選。政治にあきらめきっていましたが、環境や暮らしを良くするために声を上げて大仕事です。見逃した映画でしたが、主宰したシネマ馬力と札幌映画サークルの後援で観ることができてよかったです。

是非7月20日の参議院議員選挙に行きましょう！

(樋口みな子)

雷は昔を今に呼び戻し

40年前の昭和記念公園のプールでのことです「奥多摩方面に雷雲が発生。当プールに向かってきています」と、放送が繰り返されました。その年は、湘南海岸で落雷などの死亡事故が多発しました。

群衆は慌てふためいて、駐車場や電車の駅に向かって走り出しました。午後3時頃なのに辺りは暗くなり、一目散に走る私達に、黒い雷雲は巨大なローラーとなってゴロゴロと地響きを立てて背中へ迫ってきました。駐車場のゲートに着く頃には土砂降りになっていました。暗がりの中、車はライトをつけて迎えにやってきます。その時でした。「ねえパパ、ライオンが来るの?」という声が聞こえてきました。父親に背負われてここまでやってきた坊やの声でした。小学生の娘と私は目を合わせて微笑みました。「多摩動物園から、雷雲のライオンが追いかけてきたのね。ライオン坊やは、今では40代でしょうね。その時小学生だった娘にも、今では高校生の息子がいます。(調布市・鈴木陽子)



7.1 野付半島のハマナス(撮影：札幌市・吉成久和さん)

購読料と寄付、著書をありがとうございます(敬称略)

5.27~7.1 松浦幸子 新井喜美子 高橋雋 神原照子
小宮山あい子 藤田春美

合計40,000円は印刷と送料に使わせていただきます。

購読料の振り込みは：

ゆうちょ銀行(記号)19710(番号)02218911

他銀行からは(店名)978普通預金(口座番号)0221891
樋口みな子宛にお願いします。